

こども通信

新年明けまして

おめでとうございます

新しい年。きつと清々しい気持ちで迎えられたことでしょう。

本年も皆さんにとって良い年であることを祈っています。

* *

今年は平成最後の年になります。5月からは新元号に改まり、また新たな歴史が始まるという、そんな年になりそうです。



たいと思います。

ところで本来の干支は食物の成長

新元号・きつともう決まっていますのでしよう。もったいぶらないで早く教えてほしいですね。

今年「亥（いのしし）」の年。イノシシというと、猪突猛進のイメージがあります。目指す方向に突き進めばいいのですが、イノシシだ

め込む年。あまり急がず、基本を大

安全確実、質実剛健、有言実行・目標をもち、行くべき方向をしつかり持つて歩みを進めていき

とむやみやたらに突っ走っていきそうで怖いです。つい思いつきでやっしてしまう私は反省しなくては。

塚田こども医院

小児科・アレルギー科

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

各種ネット予約
www.0255447777.com/i

ホームページ
www.kodomo-iin.com

感染症情報

新潟県全体では**インフルエンザ**が12月中旬に流行期に入りました。上越地域の流行はそれより早く、すでに学級閉鎖などの措置も出されています。冬休みに入るといったん下火になり、3学期が始まっていよいよ本格的な流行になっていくものと思います。十分に注意して下さい。

感染性胃腸炎の発生が増加しています。日頃からの手洗いやうがいの習慣づけは大切です。また乳幼児や高齢者は脱水になりやすく、もしぐったりしている様子があれば受診を急いで下さい。

りんご病（伝染性紅斑）の発生数が増えています。子どもにとっては頬や腕などが赤くなるだけの軽い感染症ですが、大人の方がかかると発熱や強い関節痛がおきます。また妊娠中の女性が罹患すると流産するおそれがあります。注意して下さい。

咽頭炎などを起こして、発熱とともに咽頭痛を起こす感染症も目立ちます。**溶連菌感染症**や**アデノウイルス性咽頭炎**などです。いずれも感染力が強く、登園・登校停止になります。

気管支炎などを起こし、咳が強くなる**RSウイルス感染症**、**マイコプラズマ感染症**なども発生があります。

風疹が首都圏などで流行しています。免疫を持たない成人男性の中で発生しがちです。必要な方はワクチン接種をお勧めします。

麻疹の発生は当地ではありませんでした。

切にし、基礎体力を作って、次の飛躍に備えておきましょう。
私は今年62歳に。平均寿命までまだ時間があります（そこでダウンするわけでもないけど）。
まだまだやりたいことがありますし、走り続けたい（いろんな意味で）。今年一年を大切に生きていきたいと思っています。
本年もどうぞよろしく願っています。

今月の予定

院長出務

上越市乳幼児健診 9、16日

上越市休日診療所勤務 12日

上越市夜間診療所勤務 16日

上越有線放送 「健康ライフ」 22日

FM上越 「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報（毎週）

FM上越：木曜午後1:35頃～

上越有線放送：月曜午後6時～（番組内）

インフルエンザ

今年のトレンド

冬場になると必ず流行する感染症・それがインフルエンザです。急な発熱とともに、寒気やだるさが強く、頭痛、関節痛、筋肉痛なども伴います。

その重症感からも、そして大規模な流行になることから「風邪の王様」とも呼ばれています。

当地ではすでに12月に流行シーズン入り。年が明けて3学期が始まると、例年のように大流行になる可能性があります。

●新しい治療薬が登場

感染症ですので、治療の原則は原因となるウイルスを少なくすること。症状が軽い場合にはそのまま経過をみていいのですが、通常は抗インフルエンザ薬を使用します。

代表の薬は「タミフル」という内服薬です。使用量が多いために耐性ウイルスの出現もあるようですが、外来診療の中で治療に困ることはあまりありません。今でも治療薬の代

表です。

今シーズンは後発品が発売されています（一般名「オセルタミビル」）。薬価が安いいため、より多く使われることになるでしょう。

この他、昨シーズンの最後に発売された「ゾフルーザ」という内服薬が、今シーズンは本格的に使用されています。5日間の服用が必要なタミフルとは違い、1回の服用のみ。効果もしっかりしている印象があります。（今のところはまだ錠剤のみ）

ただし新薬ですので、思いがけない副作用がでないか心配です。また耐性ウイルスの発生についても注意していく必要があります。

この他、吸入薬の「リレンザ」「イナビル」、点滴治療薬の「ラピアクタ」は従来通り使用できます。その時の症状などを勘案しながら治療薬を選択していきます。

●異常行動に注意

これまで異常行動の心配からタミフルは10歳代には使用できませんでしたが、今シーズンからはその制限はなくなりました。

経験的漢方論（1）

漢方は胡散臭い！？

漢方のことは良く分からない、本当に効くの？・・・そう思っておられる方も多いでしょう。実は私も以前はそうでした。

私が受けた医学教育はいわゆる西洋医学のみ。漢方を学ぶ機会はありませんでした。現在の医学教育では漢方について一定の講義があるようですし、いくつかの医学部には漢方専門の講座も設けられています（富山大学医学部など）。

漢方と西洋医学とは根本が全く異なっています。西洋医学では、体の臓器を細かく診ていき、病気の原因を探っていきます。時には様々な検査器具を使い、病気を特定していくことから治療が始まります。

漢方的診断では、必ずしも病名がつかなくても治療できます。その時の症状や様子から、効果のある漢方を選んでいきます。

薬のでき方もまったく違います。西洋医学では物質の性質を調べ、どの成分がどんな効果を持っているかを突き詰めていきます。その成分だけを抽出したり、合成したりして薬を作ります。

漢方は植物や鉱物といった自然物を利用します。それもほぼそのままです。さらに数種類を組み合わせ、薬として使います。単品でも効果はありますが、混合して作られた漢方という薬は、効果も強くなりますし、効能もずいぶん違ったものに仕上がっています。

胡散臭いとさえ思っていた私が、今では漢方無くして診療できないくらいになっています。それは漢方とある運命的な出会い（！？）があったから。その話は次回にいたします。

●漢方もいいですよ

といっても異常行動がなくなつたわけではありません。インフルエンザにかかり、当初の発熱中は異常行動を起こすことが少なくありません。抗インフルエンザ薬を使用していなくても同じです。

インフルエンザの寒気やだるさに効果のある西洋薬はありません。でも漢方薬には体温を上げ、寒気やだるさを緩和する薬があります。インフルエンザの治療では漢方薬の出番が多いです。

麻黄湯、葛根湯、麻黄附子細辛湯、香蘇散などを初期に使います。また補中益気湯には予防効果もあります。受験生必需品の漢方です。